



文部科学省採択事業(平成28年度～平成31年度)
大学教育再生加速プログラム(AP)

テーマV 卒業時における質保証の取組の強化

「学士課程教育」と「看護現場での現任教育」の
シームレスな接続を目指して



学校法人 日本赤十字学園

日本赤十字九州国際看護大学

Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing

人間を救うのは、人間だ。 Together for humanity



大学教育再生加速プログラム (AP)

Acceleration Program for University Education Rebuilding : AP

「大学教育再生加速プログラム」とは、国として進めるべき大学教育改革を一層推進するため、教育再生実行会議等で示された新たな方向性に合致した先進的な取組を実施する大学を支援することを目的としているものです。(文部科学省ホームページより)

高大接続改革推進事業

テーマⅠ アクティブ・ラーニング

テーマⅡ 学修成果の可視化

テーマⅢ 入試改革・高大接続

テーマⅣ 長期学外学修プログラム
(ギャップイヤー)

テーマⅤ 卒業時における
質保証の取組の強化

本学は、テーマⅤ「卒業時における質保証の取組の強化」に採択されました。

平成28年度、選定件数19件(申請件数116件)

3つのポリシー(入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)、教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)、卒業認定・学位授与に関する方針(ディプロマ・ポリシー))に基づき、卒業段階でどれだけの力を身に付けたのかを客観的に評価する仕組みやその成果をより目に見える形で社会に提示するための効果的な手法等を開発するとともに、大学教育の質保証に資するため、学外の多様な人材との協働による助言・評価の仕組みを構築する大学の取組を支援することにより大学教育の質的転換を促し、大学の人材養成機能の抜本的強化を図ります。(文部科学省「公募要領」より)

事業計画の概要

本事業では、生涯学び続け、成長し続ける看護人材を育成するために、学士課程教育と就職先での現任教育とをシームレスに接続する「看護職キャリアパス基礎スケール(仮称)」と「ディプロマ・サプリメント(学位証明書補足資料)」を開発する。これにより、卒業時の学修成果を社会から評価することを可能にし、適切な現任教育に繋げることができ、看護基礎教育からエキスパートナース育成までの一貫した教育システムの確立に貢献する。また、FD研修の充実によるアクティブ・ラーニングの促進と、多元的評価を用いた学修成果のアセスメントの実施にも取り組む。これらを通して、カリキュラムのPDCAサイクルを機能させ、3つのポリシーに基づく体系的で組織的な教育活動の展開とカリキュラム・マネジメントシステムの確立により、総合的な教育改革の取組を加速させる。

ごあいさつ



学長
田村 やよひ

日本赤十字九州国際看護大学は2001(平成13)年、学校法人日本赤十字学園が設置する4番目の看護大学として誕生し、以来1,400名を超える卒業生を輩出してまいりました。本学は赤十字の「人道」の理念を基調としたカリキュラムにより、人間のいのちと健康、尊厳を守る看護を国内外を問わず提供できる看護職者の育成を目指しております。

本学では開学して10年を経たころより、看護学教育を取り巻く環境の変化、学生の変化などに鑑み、教育改革を精力的に推進してまいりました。その過程で、平成28年度文部科学省大学教育再生加速プログラム「テーマV 卒業時における質保証の取組の強化」に採択され、さらに力強く改革を進めているところです。

この取組は、学生にとっては夢・目標の実現に向けた大きな力になり、大学にとってはより細やかな教育指導体制の構築を図ることができると考えております。また、現在6割近い学生が就職する赤十字病院と連携することにより、学部教育から卒業後継続教育までを継ぎ目なく実現し、高い実践力を有する看護専門職者の育成に貢献できると考えております。折々には本事業の成果を社会に発信しながら、全学一丸となって事業に取り組んでまいります。



AP実行委員長
小林 裕美

現在、社会において求められる人材は高度化・多様化しており、大学を取り巻く環境は大きく変化しています。そのため、学生の視点に立って入学生を高校教育から大学教育へ円滑に移行させ、個々の学生の能動的な学修を促進するための柔軟なカリキュラムを構築し、一人ひとりの学修の充実を図る学士課程が求められています。これは、看護基礎教育においても例外ではなく、保健・医療・福祉を取り巻く社会の変化がいつそう著しい中で、学士課程における教育の質向上が問われることを実感しています。

本学はこれまで、シラバス(授業概要)の充実、初年次教育の強化、ラーニング・コモンズ(学生が主体的に学習するスペース)の整備、外部テストの導入を含めた多面的評価の実施等に取り組んできました。このAP事業を通して、これまでに見えてきた課題に対応し、学生の変化にも対応できるよう『カリキュラムのPDCAサイクル』をしっかりと機能させることが重要と考えています。本事業のテーマ『卒業時の質保証』を検討するには、就職後にどのような看護職を育成していくのかという人材育成ビジョンを就職先の方々と共有することが重要と考えました。そこで学士課程と就職後の現任教育のシームレスな接続をめざして各事業を計画しています。本事業の成果により卒業時の学修成果を社会から評価可能にし、その結果をカリキュラムに反映できるようにすることで、カリキュラム・マネジメントシステムが確立できるように、しっかりとすすめていきたいと存じます。



AP事業について

事業計画



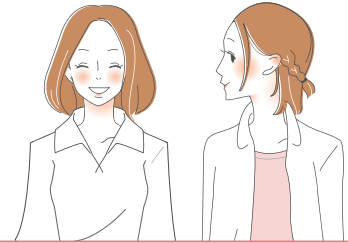
3つのポリシーに基づく体系的で組織的な教育の確立



ディプロマ・サプリメントの整備



看護職キャリアパス基礎スケール〈仮称〉の開発



大学に求められる3つのポリシー

大学には、教育理念を踏まえ、一貫性のある3つのポリシーを策定し、これに基づく大学教育の諸活動を実施し、点検・評価・改善をすることで学士課程の内部質保証システムを確立することが求められています。

● アドミッション・ポリシー (入学者受け入れの方針)

入学者に求める学力・資質を明確にしたもの。

● カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)

体系的で組織的な教育活動展開のための教育課程編成、教育内容・方法、学修成果の評価方法を明確にしたもの。

● ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与に関する方針)

卒業を認定し、学位を授与するために学生が身に付けるべき資質・能力を明確にしたもの。

本学の3つのポリシー

● アドミッション・ポリシー (入学者受け入れの方針)

本学の看護学部で学ぶ学生には、このような人を求める。

- ①人間の尊厳と人権を大切にできる人
- ②主体的、創造的に考え行動しようとする人
- ③看護の基盤となる広い教養を学び専門的知識を身につけたい人
- ④赤十字の理念を理解し国際的活動に関心を持っている人

● カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)

本学では、カリキュラムの編成・実施方針を以下のとおり定める。

- ①カリキュラムは赤十字の理念を基盤として、その編成の主要概念を「人間」「環境」「健康」「国際」「看護」の5つとし、科目区分は「リベラルアーツ・専門基礎科目」「専門科目」とする。
- ②「リベラルアーツ・専門基礎科目」は、「人間」「環境」「健康」「国際」により構成し、もう一つの主要概念の「看護」と有機的に連携を保つ。
- ③看護「専門科目」は、「看護の基盤」「看護の展開と応用」「看護の統合」に細分し、さらに看護学演習科目・実習科目についてはI～Vのレベルで段階的に学修をすすめる。
- ④赤十字関連科目をはじめ「リベラルアーツ・専門基礎科目」、「専門科目」の多くの科目を通じて【人間の尊厳と権利を擁護する力】を育む。
- ⑤初年次教育科目等によって、主体的・自立的学修スキルを身に付け、学年進行とともに【自己教育力】および【問題解決力】を段階的に育成する。
- ⑥講義科目においては、知識を得ることにとどまらず、知識を活用する思考力の育成まで含めた授業として計画・実施し、【問題解決力】を強化する。この評価には多元的評価を用いる。
- ⑦基礎力総合ゼミナール等の演習科目や看護学演習・実習科目におけるグループ討議や少人数での学びあいによって【チームで働く力】を強化する。
- ⑧看護学およびその他諸学の知識を統合し、自らの看護実践力を向上させるとともに、グローバルな視点で将来の看護学の発展を思考する「看護の統合」科目を通じて【看護の専門性を探究する力】を育成する。

● ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与に関する方針)

本学ではディプロマ・ポリシーとして、卒業認定・学位授与に関する以下の方針を定めている。所定の単位を収め、次の能力を身につけた者に学士(看護学)の学位を授与する。

1. 人間の尊厳と権利を擁護する力

- ①幅広い教養を培うことによって豊かな人間性を育むことができる。
- ②赤十字の理念である人道に基づき、人間としての尊厳と権利を尊重・擁護することができる。

2. 自己教育力

- ①自らの思考や行動を内省することにより、自己の成長を促進することができる。
- ②自ら目標を設定し、主体的かつ自律的に継続して学習することができる。

3. チームで働く力

- ①集団の中で自己の果たしうる役割を理解し、他者と協働することができる。
- ②グローバル社会における看護の役割と機能を多面的にとらえ、チームの一員として集団の力の最大化に努めることができる。

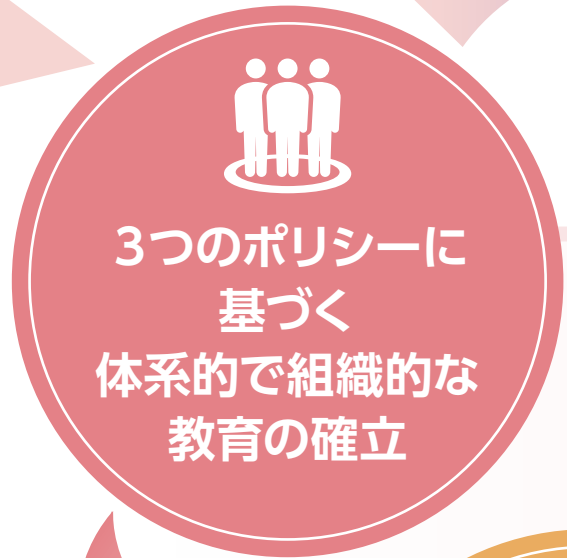
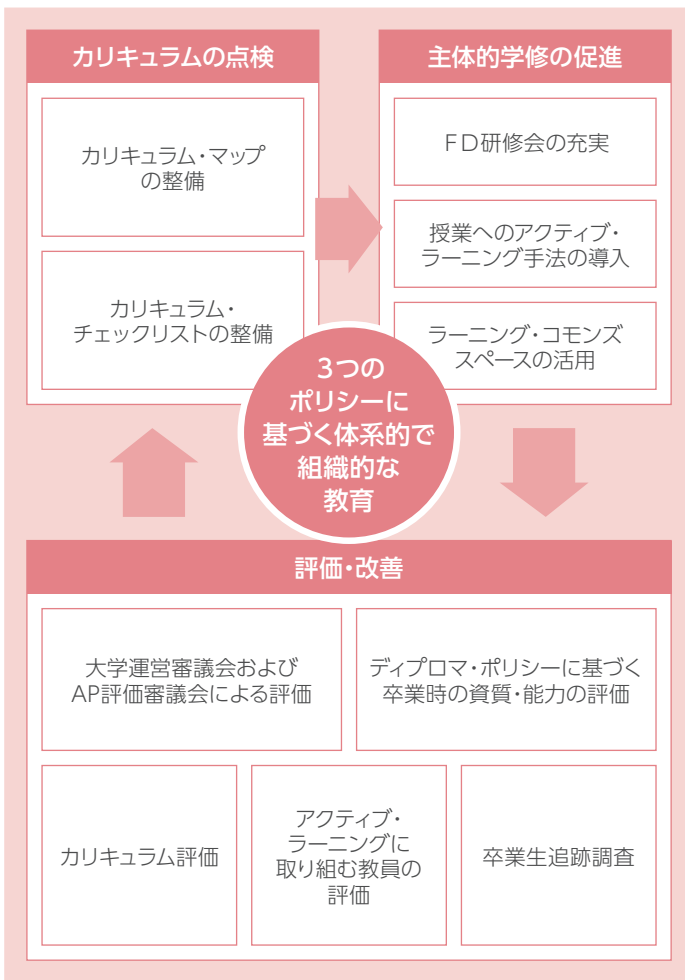
4. 問題解決力

- ①人間・環境・健康・看護・国際に関する知識を体系的に修得することにより、看護を必要とする個人・家族・集団・コミュニティを適切にとらえることができる。
- ②グローバル社会における健康ニーズを把握し、科学的根拠に基づいた解決策を考え、実践・評価することができる。

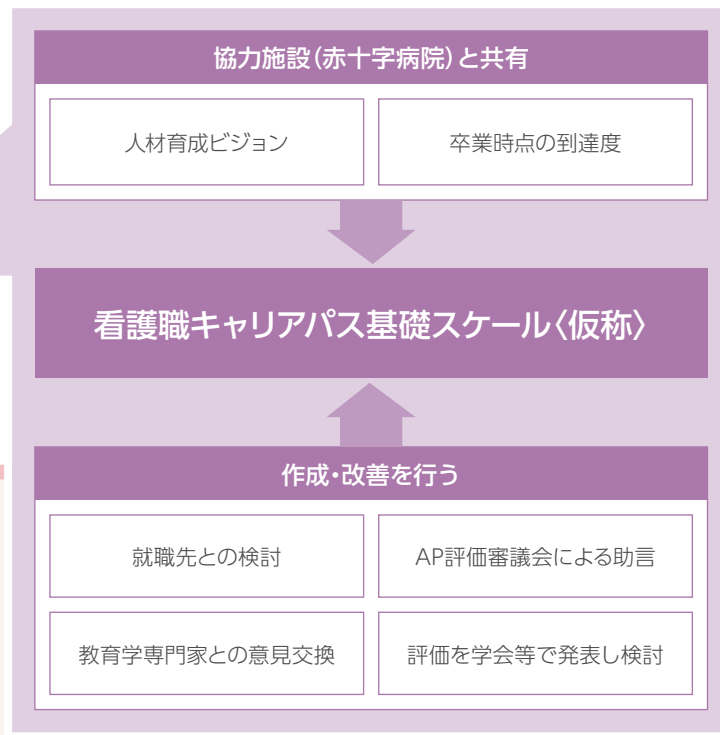
5. 看護の専門性を探究する力

- ①看護の課題を探究する総合的な視野を培うことにより、看護を発展させるための基礎的能力を身につけている。
- ②看護職としての社会的使命を自覚し、人々の健康増進への関心と意欲をもち、研究的取り組みを通して、看護の発展に貢献することができる。

日本赤十字九州国際看護大学の教育全体像

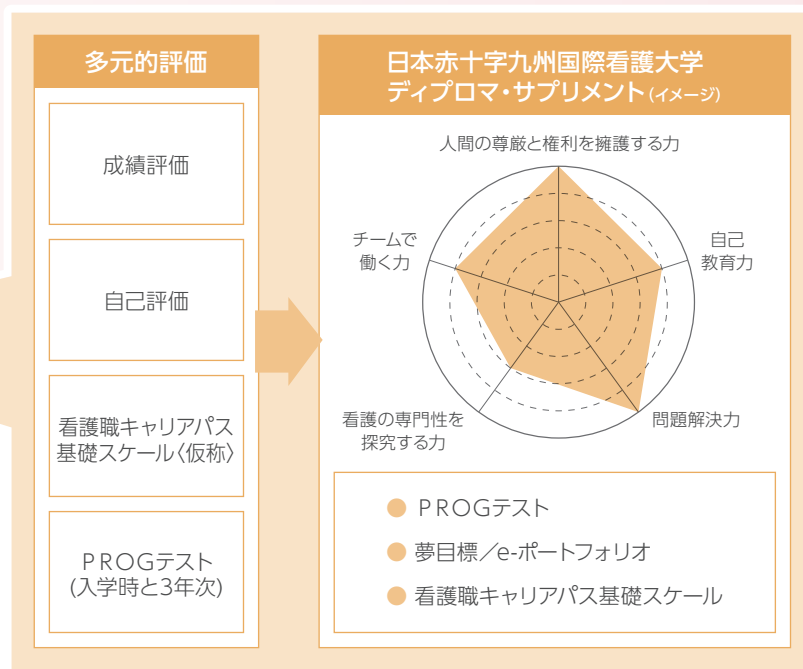


看護職キャリアパス基礎スケール〈仮称〉の開発



学士課程教育と
看護現場での現任教育の
シームレスな接続

の



アクティブ・ラーニングとは
受け身になる学習ではなく、学生の自らによる思考を促す能動的な学習方法の総称。

FDとは
「ファカルティ・ディベロップメント」の略。教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取り組み。

ディプロマ・サブプリメント (学位証明書補足資料) とは
「学生の成長の軌跡」および「卒業時の到達度情報」を多角的に評価した結果をまとめたもので、就職活動やキャリア・アップに活かすことができる書類。

ルーブリックとは
学習者が何を学習するのかを示す評価規準 (= 指標) と学習者が到達しているレベルを示す具体的な評価基準 (= 尺度) をマトリクス形式で示す評価指標。

PROGテストとは
ジェネリックスキルを測定、育成するために導入した外部テスト。



協力施設(赤十字病院)

山口赤十字病院

嘉麻赤十字病院

日本赤十字九州国際看護大学

唐津赤十字病院

今津赤十字病院

福岡赤十字病院

日本赤十字社長崎原爆病院

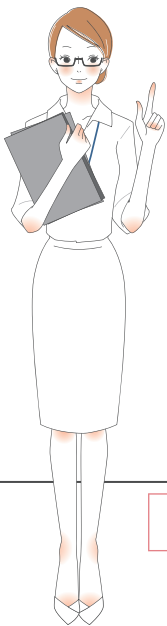
日本赤十字社長崎原爆諫早病院

熊本赤十字病院

大分赤十字病院

沖縄赤十字病院

鹿児島赤十字病院



赤十字病院では
看護職として
キャリアアップする
環境が整って
います。

赤十字病院へ就職

ラダー-I

ラダー-II

ラダー-III

ラダー-IV

ラダー-V

※キャリア開発ラダー：日本赤十字社が全国の赤十字病院に導入している、段階的に設定された教育システム。

本事業により期待される効果

就職先と連携した継続教育を実現することで看護基礎教育からエキスパートナース育成までの一貫した教育システムを確立

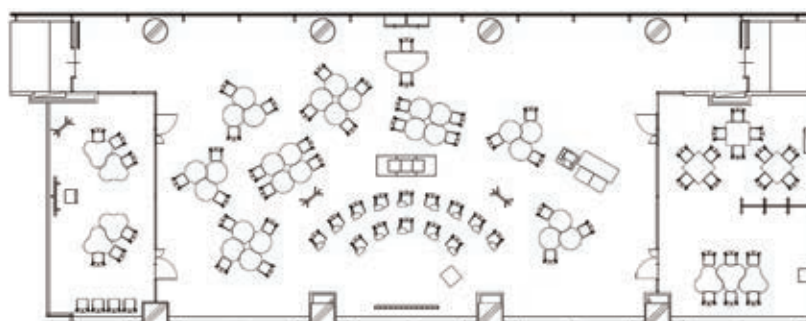
- ①本事業により、看護基礎教育と現任教育を連続線上に据えた「学修の見える化」が促進され、学生は生涯学習の観点から主体的学修の動機づけとなり、学生の将来像を見据えたうえでのカリキュラム評価の資料を得ることができる。
- ②本事業により、カリキュラムのPDCAサイクルが機能し、カリキュラム・マネジメントシステムを確立でき、教育改革を加速できる。

アクティブ・ラーニングを促進する環境



ラーニング・コモンズ

ラーニング・コモンズとは、共同で学習するための新しい空間です。実習のまとめやプレゼンテーションの練習など、様々なグループでのアクティブ・ラーニングの形に応じて活用することができます。仲間と話し合いながら学ぶことで、新しいアイデアが浮かんだり、みんなの学ぶ姿勢に刺激を受けたり、そこで話したことをきっかけに新しい人間関係が生まれるなど出会いの場でもあります。



日本赤十字九州国際看護大学 AP実行委員会 事務局

所在地：福岡県宗像市アスティ1丁目1番地
電話：0940-35-7001
F A X：0940-35-7021
m a i l：ap-jimu@jrckicn.ac.jp
U R L：http://www.jrckicn.ac.jp/

